

安全風土醸成分科会の活動経緯

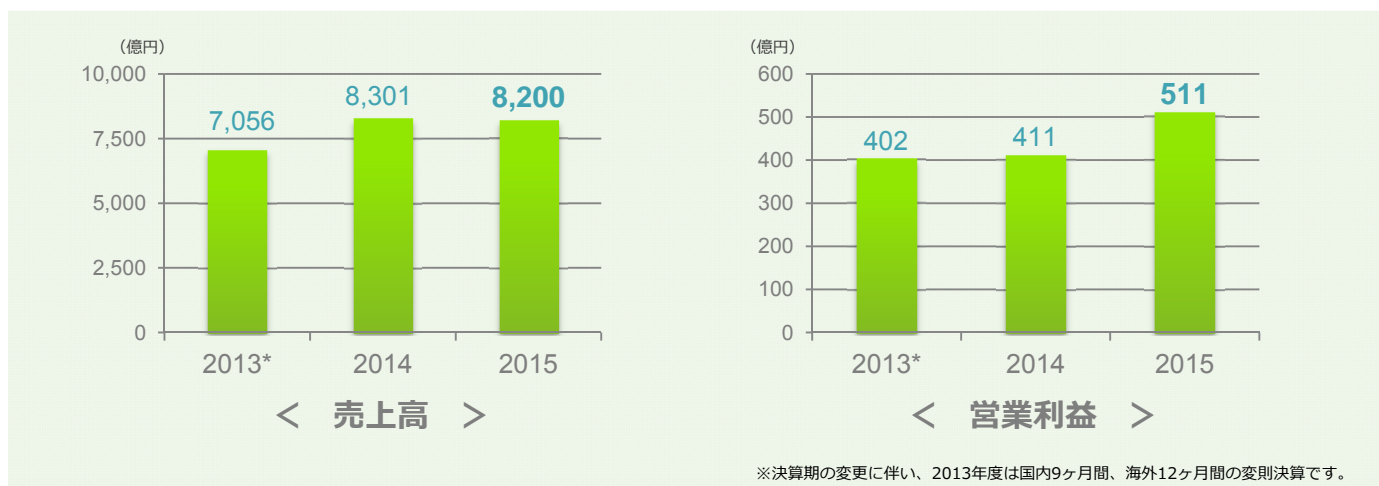
2016年6月16日

田中利幸 藤井健治 大川隆敏 守田哲也 前田馨 蛭川芳夫
大矢勉 竹内淳 小田祐司 江尻友美 小堀勉 細見武志
(2015年4月末メンバー)

DIC株式会社 会社概要

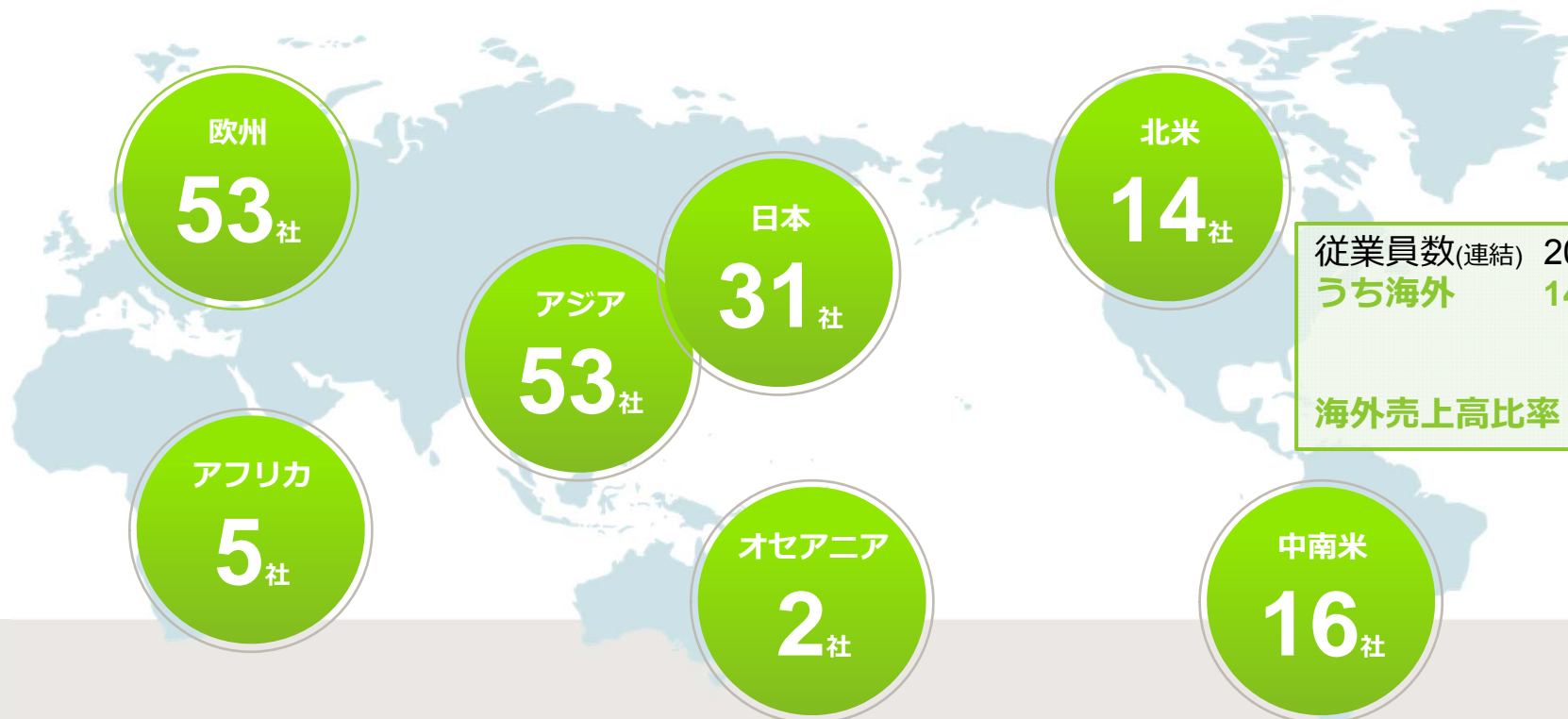


商号	DIC株式会社
本社	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
創業	1908年2月15日（明治41年）
資本金	966億円
従業員数	連結 20,264名 単体 3,581名（2015年12月31日現在）
関係会社	174社（国内31社、海外143社）（2015年12月31日現在）
売上高	8,200億円（2015年12月期）
営業利益	511億円（2015年12月期）

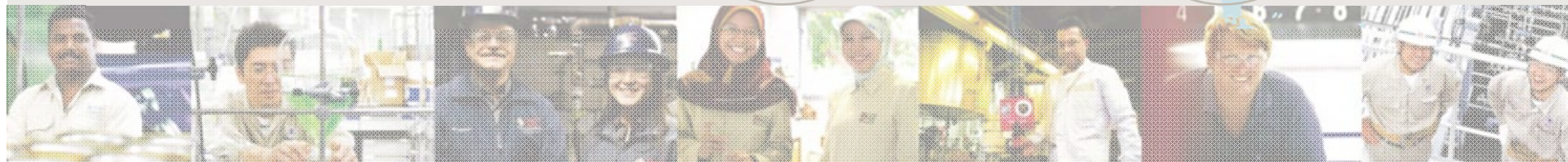


DICのグローバルネットワーク

世界64の国と地域に174のグループ会社を通じて事業を展開しています。



従業員数(連結) 20,264人
うち海外 14,298人
(70%)
海外売上高比率 約60%

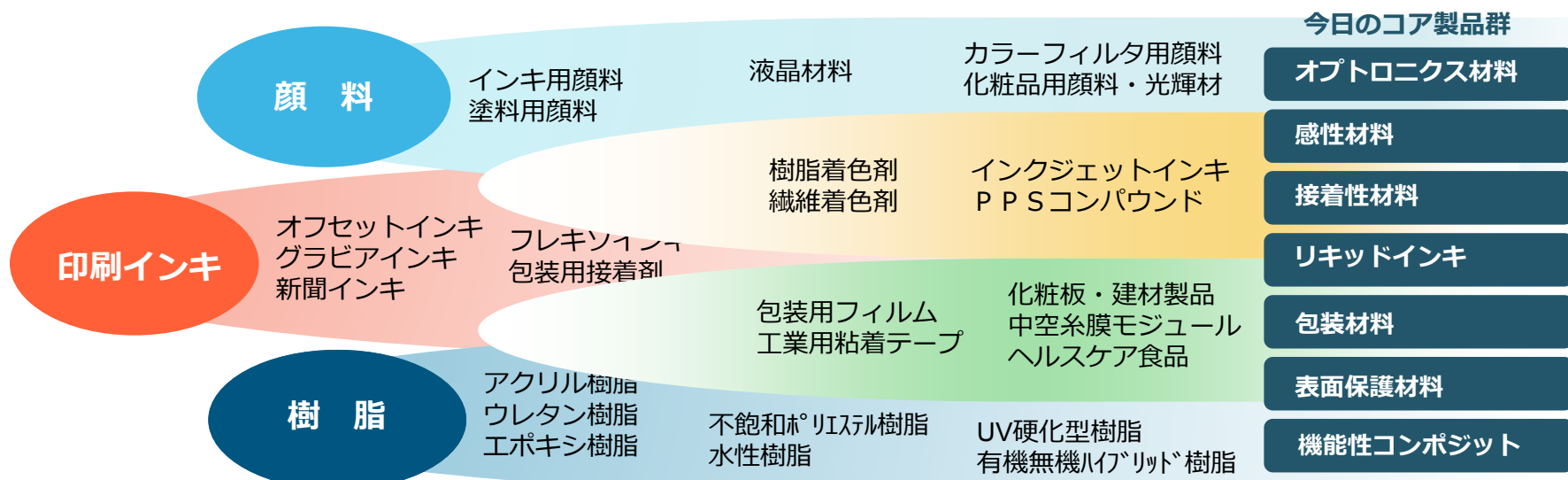


(2015年12月31日現在)

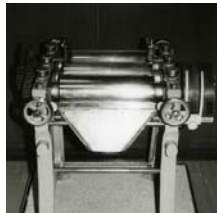
DICの事業の歩み

1908

2016



1915



オフセットインキの製造を開始

1925



有機顔料の国内初の自給生産を開始

1952



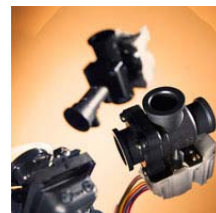
合成樹脂事業に本格参入

1974



シャープの液晶電卓にDICのネマティック型液晶が採用

1980



PPSコンパウンドの生産を開始

1999



100%植物油インキ(Naturalith)を開発

2010



突出した輝度を有するカラーフィルタ用グリーン顔料(G58)を開発

1908

川村インキ製造所として創業



1952

米Reichhold社との合弁出資により日本ライヒホルド化学工業(JRC)を設立

1962

大日本インキ化学工業の発足



1986

Sun Chemical社のグラフィックアーツ部門を買収



2008

創業100周年を機にDIC株式会社に社名変更



2016

中期経営計画「DIC108」スタート

DIC（株）及びDICグラフィックス（株）工場の安全担当者による安全に関する分科会

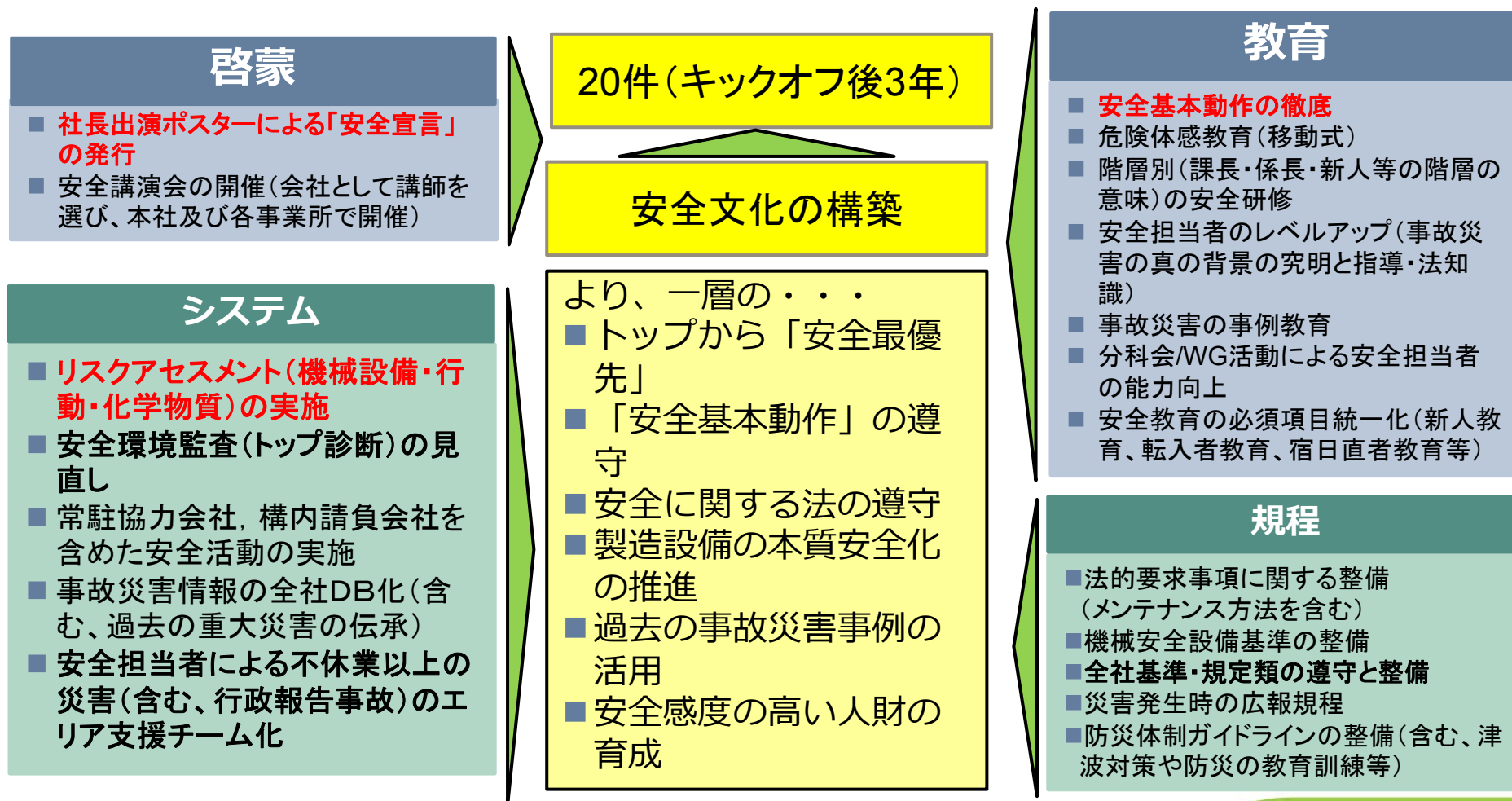
- 2011年より活動を開始し、2015年11月末現在で34回の会合を実施。
- メンバーは各工場の安全担当で、他メンバーの推薦により加入。
- 安全に関する方策をレスポンシブルケア部長（本社安全環境担当部署、以降RC部と省略）へ上申
- 各種の成果物を上申。

下記成果物をRC部長へ上申

- **全社の安全方針体系に係る意見の上申**
⇒2015年の方針変更へ反映
- **安全注意喚起ステッカーの作成**
⇒世界の工場での利用
- **社長の安全ポスターの作成**
⇒安全第一をコミット
- **安全基本動作（安全に関する基本ルール）の輪読制度化と安全基本動作の輪読版作成**
⇒日本国内の工場全部署にて輪読を継続実施中

前提；現状把握及び活動原案の作成

活動の基になる現状把握を実施。項目によってはRC部により実施され効果を発揮（安全体感教育等）



① 全社の安全方針体系に係る意見の上申

安全は必ず一番先に！（環境安全⇒安全環境） その他文章の見直し

安全・環境・健康の基本方針

DICグループは、社会の一員として、また化学物質を製造・販売する企業として、安全・環境・健康の確保が経営の基盤であることを認識し、このことを事業活動のすべてに徹底し、「持続可能な開発」の原則のもとに生物多様性を含め地球環境等に調和した技術・製品を提供し、もって社会の発展に貢献する。

1. 製品のライフサイクルにわたり、安全・環境・健康に責任を持って行動する。
2. 安全・環境・健康の目的・目標を定めて、継続的な改善を図る。
3. 安全・環境・健康に係わる法律、規則、協定などを遵守する。関係法律が整備されていない国においては、安全操業最優先・地球環境保護の観点に立ち行動する。
4. 安全・環境・健康の教育と訓練を計画的に実施する。
5. 安全・環境・健康を確保するために、体制を整備し、内部監査を実施する。

この基本方針は、社内外に公表する。
DICグループ各社に対し、この基本方針に対応することを求める。
上記に述べた「安全」には、保安防災を含む。

2014年4月1日

DIC株式会社
ディー・アイ・シー

代表取締役 社長執行役員
中西 義之

上申内容を基にRC部にて
役員会に上程し、承認

⇒

DICグループワールドワイド
の方針となる

部署/役職名も変更

環境安全グループ⇒安全環境グループ

②安全注意喚起ステッカーの作成

分科会にて10種の危険源を選び、デザインを社内公募
分科会にて選定し、ステッカー作成子会社にて作成
文字を使わず作成し世界中で活用されている



③社長の安全ポスターの作成

- ・デザイン案を分科会にて作成し、デザイン子会社にて作成
- ・英語版/中国語版も作成し世界中に配布



プロへの外注で、
手作り感のない出
来栄えを追求

背景は現場風景を
採用

④ 安全基本動作の輪読制度化

安全に関する基本ルール（約100個）を毎日一項目ずつ工場全部署にて輪読を実施している。

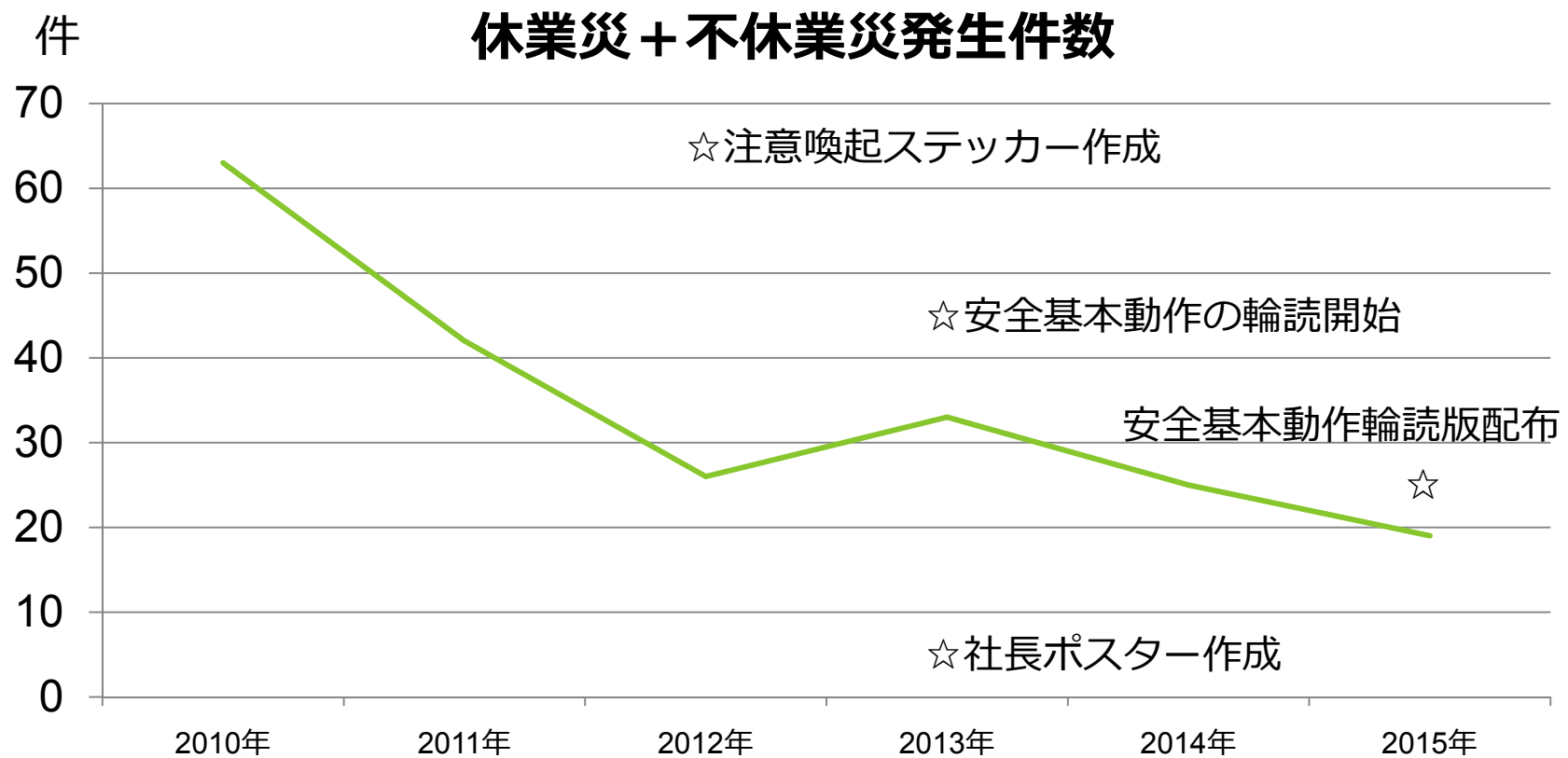


基本コンセプトは、「ルールの遵守は知識ではなく習慣として行われる」。

⇒ 1項目ずつ、毎日実施し習慣化を狙う

輪読がやりやすいように、カレンダーのような「輪読版」を作成し、全部署に配布。

国内の労働災害件数はRC部の施策と相まって、顕著な件数削減に成功



トップダウンとボトムアップが有機的に融合

- 各工場の安全担当が普段困っていることを持ち寄り、その対策を具体化（ボトムアップ）
- 対策は本社部門が指示として通達（トップダウン）
- 実行主体（工場の安全担当）が自分の作った対策なので本気で実行（ボトムアップ）
- 本社による安全監査で実行度合いを検証（トップダウン）

⇒施策が工場に定着

⇒安全文化が少しずつ定着

⇒だんだんと災害件数が減少

当分科会の活動が評価された事を厚く御礼申し上げます。

もちろん、分科会の活動だけで労働災害の減少につながっているわけではなく、安全体感教育や、職場におけるKY、RAの実施等日常安全活動を確実に実施していることも評価につながったと理解しております。

分科会の活動も職場の日常活動も成果物や件数をこなすことが目的とならず、真に安全につながるものにしてたいと考えています。



Color & Comfort by Chemistry